

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

* 堂平観測所開所記念絵葉書発見

東京大学東京天文台堂平観測所は、岡山天体物理観測所開所の2年後、1962年12月に開所式を行った。その際配られたと思われる開所記念の絵葉書があった(写真1)。堂平観測所は開所当時は91cm反射望遠鏡1台のみであった。この91cm反射望遠鏡は91cm天体写真儀(36インチ天体写真儀)というもので、ブラッシャー天体写真儀の後継機の位置づけで製作された。戦後の東京天文台の復興に尽力された萩原雄祐第5代台長の構想の望遠鏡の一つで、岡山天体物理観測所に設置されるはずであった。堂平に設置したことを知った、すでに退官されていた萩原雄祐元台長が激怒したと聞いている。

戦後、萩原雄祐台長は、世界的地理条件から日本は世界の鼎の3脚の一つに位置し、日本に本格的望遠鏡があることの重要性を訴えておられた。岡山にはイギリスから188cm反射望遠鏡を汎用観測望遠鏡として購入し、日本も大型望遠鏡製作ができねばと2本の、91cm反射望遠鏡を日本光学に製作を依頼した。一つが岡山に設置された91cm光電赤道儀であり、一つが堂平に設置された91cm天体写真儀であった。

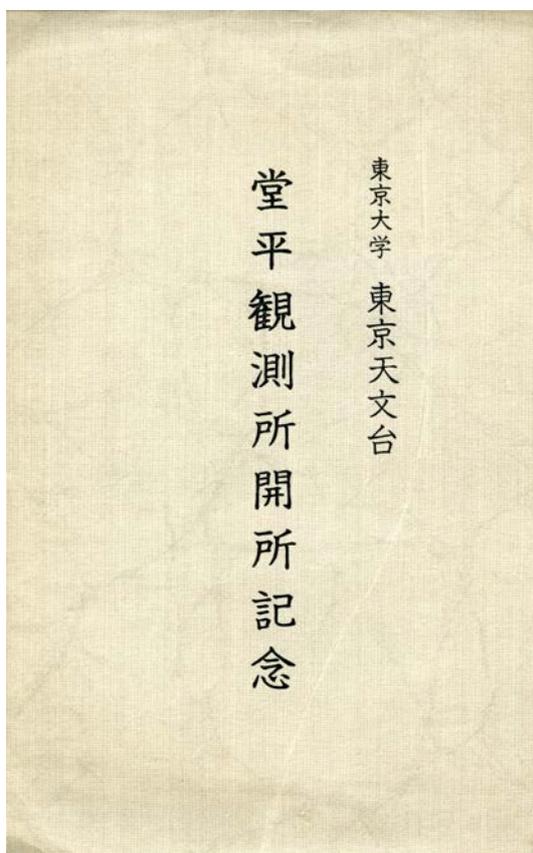


写真1 堂平観測所開所記念絵葉書

堂平観測所は、東京天文台の本部がある三鷹から駆けつけて、新天体発見、突発現象などに対応できるよう埼玉県比企郡都幾川村の標高876mの山頂に設置された。堂平山頂からは関東平野が見渡せ、当時は空も暗かったが関東平野が一望できるということは、東京の明かりがどんどん明るくなり、観測がしづらくなることは予見できたはずであったが、駆けつけ観測を行いたいという要望が勝つたのだと思う。そして関東平野の端にあることから冬の天気は世界有数といっていいほど良いが、4月以降、冬に向かうまでは天気の悪い場所でもあった。

それでも堂平観測所にはその後、夜光観測装置、極望遠鏡、流星写真儀、人工衛星追跡望遠鏡、月レーザー望遠鏡など次々と建設されていった。91cm反射望遠鏡は天体写真儀の役目よりは測光観測、偏光測光観測装置が主力になっていった。

開所記念の絵葉書は2枚の写真が入っているのみであった。開所当初は観測者は91 cm望遠鏡ドーム内で生活し、食事も睡眠もドーム内でとり、ほかに施設はなかったのである。

写真2が91 cm反射望遠鏡ドーム、写真3が91 cm反射望遠鏡である。



写真2 91 cm望遠鏡ドーム



写真3 91 cm反射望遠鏡

この堂平観測所は、ハワイに建設された大型光学赤外線望遠鏡「すばる」のハワイ観測所が本格的に観測を開始した2000年に閉所された。

現在は、ときがわ町が運用する堂平天文台として活動を続けている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp